

朝日新聞・11/30 読書面

地に足のついた生活をしたい、自分の身体と感情に正直な暮らしをしたい。そう思う2人を、人口減少の村が穏やかに受け入れる。——宇野重規（東京大学教授）

彼岸の図書館 ぼくたちの「移住」のかたち 青木 真兵、海青子〈著〉

夕書房 2200円



古代地中海史の研究者である夫と、図書館の司書をする妻。都市での生活で体の変調を感じた若い夫婦は、奈良県東吉野村に移住する。「命からがら逃げ延びた」2人が始めたのは私設図書館であった。とはいっても、大きな図書館ではない。自宅を公開し、蔵書を利用者に手にとってもらうことを目的とする、小さな図書館である。しかし、川を渡って訪れる図書

館はまさに「彼岸の図書館」であり、現代社会とは違った価値と生き方を求める人々の実験の場所でもある。本書を読むと、日本社会が大きな転換点にあることを感じる。地に足のついた生活をしたい、自分の身体と感情に正直な暮らしをしたい。そう思う2人を、人口減少の村が穏やかに受け入れる。社会福祉法人で働くなど、地域の中で居場所を見つけていく著者たちの活動を思わず応援したくなる。知と社会への熱き思いを語る夫と、静かに、印象的な言葉を口にする妻の組み合わせが魅力的だ。

宇野重規（東京大学教授）



西日本新聞・12/14 読書面

「ルチャ・リブロ」のような知的交流の場が次々に行えることが、移り住みたい魅力的な地方をつくる鍵となるのではと期待を抱かせる一冊。——大井 実(ブックスキューブリック)

話題沸騰！ メディアで紹介されています。



週刊新潮・11/28 増大号

土地に根ざしながらも、土地に縛られずに、時空を自在に行き来する。そんな新たな共同体の姿に未来の希望を感じた。——大竹昭子(作家)

折々のことば 鷺田 清一 1670 「正しき」より「楽チンさ」をものさしに落としこころを探せたらいいんじゃないかな 青木海青子 夫婦で奈良県の山村に移住し、私設図書館「ルチャ・リブロ」を開いた同書。ここは「生きづらさ」を抱える人たちが遠くからも多く訪れる場所になっているが、それが無理なく続いているのは、誰かの「優しさ」や「思いやり」に期待するのではなく、支える人と支えられる人の「入れ替わり」のしくみを大切にしているからだと言う。青木真兵との共著『彼岸の図書館』から。 2019・12・16

折々のことば 鷺田 清一 1671 「なんとなく」を軽視しているから、実は誰もが感じている「もやもや」を切り捨て、「ききろ」としたものが信じなくなる。 青木真兵 人はクリアな判断のみに拠って生きてはいない。「なんだか気持ち悪い」とか「つもほできるのに今日はできない」とかいった「なんとなく」を甘く見ていると、判断や感覚に狂いが生じると、奈良の山村で私設図書館を開く歴史研究者は言う。もうもの制度大まかにも「因がありそう。青木海青子との共著『彼岸の図書館』から。 2019・12・17

朝日新聞・12/16、17「折々のことば」

「なんとなくを甘く見ていると、判断や感覚に狂いが生じると、奈良の山村で私設図書館を開く歴史研究者は言う。——鷺田清一(哲学者)

彼岸の図書館

本体 2,000 円 + 税 288 頁 / 四六判・仮フランス装 ぼくたちの「移住」のかたち 978-4-909179-04-3 C0036

内容のお問い合わせ、イベントのご相談は、夕書房（せきしょぼう）・高松まで TEL: 090-6563-2762 info@sekishobo.com

▶ご注文はツバメ出版流通まで FAX: 03-3721-1922 mail: info@tsubamebook.com TEL: 03-6715-6121 http://tsubamebook.com

貴店名 (番線印)	夕書房 既刊	http://www.sekishobo.com
	注文数	返品条件付注文扱い 返品了解 ツバメ出版流通：川人
ご担当： 様	冊	彼岸の図書館 ぼくたちの「移住」のかたち 本体 2,000 円 + 税 / 288 頁 / 四六判・仮フランス装 ISBN: 978-4-909179-04-3 C0036